

2010年(平成22年)4月1日(木曜日)



### 留萌「可能性ある地域」

西田支庁長退任あいさつ

【留萌】31日で定年退職する留萌支庁の西

田俊夫支庁長(59)が同日、道留萌合同庁舎で職員約250人を前に退任のあいさつをし

退任あいさつをする西田支庁長

た。

留萌支庁では2年間勤務。「百年に一度の改革」と言われた支庁制度改革があったことに触れ、「歴史が大きく変わる時期だった」と振り返った。

公務員生活の最後となった留萌について「北海道の中でも食資源が豊富で、まだまだ伸びる可能性のある地域」と期待を込めた。その上で「この2年で、たくさん種まきをして少しずつ芽が出てきた。今後、職員の手で育て、大きな花を咲かせてほしい」と呼び掛けた。(古田夏也)

### 親しまれた名物支庁長

西田俊夫支庁長が31日で37年の公務員生活を終えた。支庁制度改革など時代が大きく動く中、地域に飛び込み、増毛山道の復元など住民を巻き込んださまざまな取り組みを進め、市民から「名物支庁長」として慕われた。

明大を卒業し、十勝支庁を振り出しに、地域振興・企画部門を中心に歩んだ。上川教育局長なども歴任し、2008年に留萌に赴任した。

「知恵を集めればできないことはない」がモットー。江戸時代末期の増毛山道を復元させようという地元山岳会の活動に理解を示し、踏査に参加。支庁内に山の会をつくり、増毛山道の会事務局長、

小杉忠利さん(69)は「復元に向けた大きな力となってくれた」と話した。

地元技能士会との連携による「るもい匠の駅」設立にも尽力。高田昌昭代表(58)は「光の当たらなかった技能士に理解を示し、市民と接点を持てる組織をつくってくれた。宝物をいただいた気分です」と振り返った。